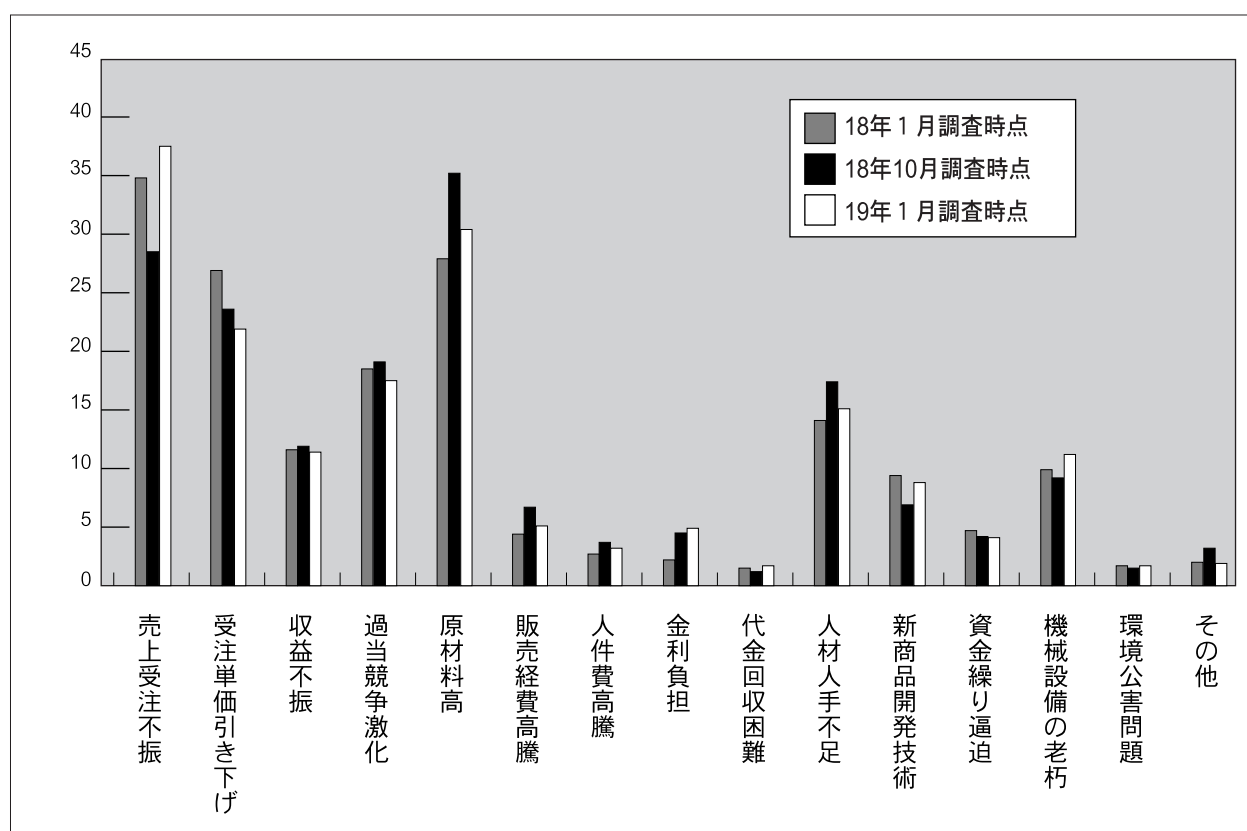


## IX. 当面の経営上の問題点

(%:複数回答あり)

	18年1月 (前年)	18年10月 (前回)	19年1月 (今回)	19年1月		前回比増減
				(うち製造業)	(うち非製造業)	
売上受注不振	34.8	28.5	37.5	(31.3)	(43.2)	9.0
受注単価引き下げ	26.9	23.6	21.9	(23.7)	(20.2)	-1.7
収益不振	11.6	11.9	11.4	(11.1)	(11.7)	-0.5
過当競争激化	18.5	19.1	17.5	(9.1)	(25.4)	-1.6
原材料高	27.9	35.2	30.4	(42.4)	(19.2)	-4.8
販売経費高騰	4.4	6.7	5.1	(1.5)	(8.5)	-1.6
人件費高騰	2.7	3.7	3.2	(2.5)	(3.8)	-0.5
金利負担	2.2	4.5	4.9	(5.6)	(4.2)	0.4
代金回収困難	1.5	1.2	1.7	(0.5)	(2.8)	0.5
人材人手不足	14.1	17.4	15.1	(14.6)	(15.5)	-2.3
新商品開発技術	9.4	6.9	8.8	(14.1)	(3.8)	1.9
資金繰り逼迫	4.7	4.2	4.1	(3.0)	(5.2)	-0.1
機械設備の老朽	9.9	9.2	11.2	(13.1)	(9.4)	2.0
環境公害問題	1.7	1.5	1.7	(1.5)	(1.9)	0.2
その他	2.0	3.2	1.9	(2.5)	(1.4)	-1.3



- 今回の調査の全産業での当面の経営上の問題点をみると、①売上受注不振37.5%(前期比+9.0ポイント)、②原材料高30.4%(前期比▲4.8ポイント)、③受注単価引き下げ21.9%(前期比▲1.7ポイント)の順となっている。
- これを製造業と非製造業に分けてみると前回アンケート同様、製造業では原材料高42.4%(前期比▲8.6ポイント)、非製造業では売上受注不振43.2%(前期比+10.5ポイント)の割合が高くなっている。
- 今回調査では機械設備の老朽が前期比2.0ポイント増加し11.2%となった。特に製造業では前回調査を3.2ポイント上回り13.1%となった。製造業について、18年10-12月期設備投資実施企業は39.4%と高水準を維持しているが、設備投資実施企業と非実施企業の二極化が懸念される。